

「羊飼いたちへの告知」 ルカ2:8~20

1. はじめに

(1) 文脈の確認

- ①ヨハネとイエスの対比(特にルカの福音書)
- ②マリアへの告知
- ③マリアのエリサベツ訪問とマリアの賛歌
- ④ヨセフへの告知
- ⑤皇帝アウグストによる人口調査の勅令
- ⑥ベツレヘム滞在中の出産

(2) きょうの箇所

- ①クリスマス物語で最もよく知られているところ
- ②羊飼いたちへの告知

2. アウトライン

- (1) 羊飼いたちへの告知(8~12節)
- (2) 天使たちの賛美(13~14節)
- (3) 幼子の礼拝(15~20節)

3. メッセージのゴール

- (1) 羊飼いが主役であることの意味
- (2) 「きょう」という言葉の意味
- (3) イエスの3つのタイトル

このメッセージは、羊飼いたちへの告知の意味について学ぼうとするものである。

I. 羊飼いたちへの告知(8~12節)

1. 8節

「さて、この土地に、羊飼いたちが、野宿で夜番をしながら羊の群れを見守っていた」

- (1) 「この土地」とは、ベツレヘム近郊のこと。

①ダビデの例(1サム17:34~35)

「ダビデはサウルに言った。『しもべは、父のために羊の群れを飼っています。獅子や、熊が来て、群れの羊を取って行くと、私はそのあとを追って出て、それを

殺し、その口から羊を救い出します。それが私に襲いかかるときは、そのひげをつかんで打ち殺しています』

- ②温暖な気候である。
- ③12月でないとは言い切れない。

(2) ベツレヘム近郊の羊飼いたち

- ①神殿で捧げる小羊を飼っていた。
- ②特に、過越の祭りで捧げる小羊であるという学者もいる。
- ③この物語の羊飼いたちがそれなのかどうかは、断言できない。
- ④イエスが誕生した洞窟は、これらの羊飼いたちの所有物である可能性もある。

2. これまでの2つの告知に似たパターンがある(1:13~20と28~37)。

(1) 天使の出現(9節a)

「すると、主の使いが彼らのところに来て、主の栄光が回りを照らしたので、」

- ①ここでは天使の名は出ていない。ガブリエルかもしれない。
- ②主の栄光は「シャカイナグローリー」である。
- ③メシア誕生に伴うシャカイナグローリーである。
- ④預言者エゼキエルの時代に、シャカイナグローリーは神殿から去った。
- ⑤ヘロデが拡張した神殿には、シャカイナグローリーはなかった。
- ⑥約500年ぶりにシャカイナグローリーがイスラエルの民の間に戻ってきた。
- ⑦メシア時代の到来である。

(2) 恐れへの反応(9節b)

「彼らはひどく恐れた」

- ①直訳は、「大いなる恐れを恐れた」となる。
- ②文語訳は、「甚(いた)く懼(おそ)る」となっている。
- ③ザカリヤの例(1:13)とマリアの例(1:30)

(3) 励ましの言葉(10節)

「御使いは彼らに言った。『恐れることはありません。今、私はこの民全体のためのすばらしい喜びを知らせに来たのです』」

- ①「恐れることはない」。ザカリヤもマリアも、同じ言葉を受けている。
- ②その理由は、喜びの知らせを持って来たということ。
- ③「この民全体」とは誰のことか。

* 「民」とはギリシア語でラオスである。

- *ルカは全人類の救いという構想を持っていた(使徒行伝で明らかになる)。
- *しかし、ここでは「この民」とはイスラエル人のことである。
- *イエスは、第一義的にはユダヤ人のメシアとして来られた。

(4) 神からのメッセージ (11 節)

「きょうダビデの町で、あなたがたのために、救い主がお生まれになりました。この方こそ主キリストです」

① 「きょう」

- *メシアによる救いの始まり

② 「ダビデの町」

- *ベツレヘム
- *ダビデ契約の成就

③ 3つのタイトル

- *救い主
- *キリスト
- *主

(5) しるしの付与 (12 節)

「あなたがたは、布にくるまって飼葉おけに寝ておられるみどりごを見つめます。これが、あなたがたのためのしるしです」

- ① 布にくるまっている。
- ② 飼葉おけに寝ている。
- ③ これは極めて稀な状態なので、「しるし」となり得る。
- ④ 羊飼いたちは、周辺にある洞窟をよく知っていた。

II. 天使たちの賛美 (13～14 節)

1. 13 節

「すると、たちまち、その御使いといっしょに、多くの天の軍勢が現れて、神を賛美して言った」

- (1) 「多くの天の軍勢」が参加した。
 - ① 「軍勢」(スツラティア) は、軍事用語である。
 - ② その彼らが、平和を宣言するのである。

(2) 賛美は、被造物に最も自然な行為である。

①天使たちもまた、被造物である。

2. 14節

「いと高き所に、栄光が、神にあるように。地の上に、平和が、御心にかなう人々にあるように」

(1) これはヘブル的対句法である。

①いと高き所 - 地の上

②栄光 - 平和

③神にあるように - 御心にかなう人々にあるように

(2) 「いと高き所」とは、第3の天(神の臨在の場)である。

(3) 「御心にかなう人々」とは、神に信頼を置く人々である。

III. 幼子の礼拝(15~20節)

1. 15節

「御使いたちが彼らを離れて天に帰ったとき、羊飼いたちは互いに話し合った。『さあ、ベツレヘムに行って、主が私たちに知らせてくださったこの出来事を見て来よう』」

(1) 彼らは、天使の御告げを神のことばと理解した。

①「ダビデの町」をベツレヘムと理解した。

(2) ただちに行動を起こしている。

①マリアがエリサベツを訪問したのと同じ姿勢

②エルサレムにいた宗教的指導者たちとは対照的(マタ2:5)

2. 16~18節

「そして急いで行って、マリヤとヨセフと、飼葉おけに寝ておられるみどりごとを捜し当てた。それを見たとき、羊飼いたちは、この幼子について告げられたことを知らせた。それを聞いた人たちはみな、羊飼いの話したことに驚いた」

(1) 「探し当てた」

①発見の前に、捜す行為があった。

②「しるし」を知っていたので、発見できた。

(2) 羊飼いたちは、マリアとヨセフ以外の人々にも、自分たちの聞いたことを伝えた。

①それを聞いた人たちは、驚いた。

3. 19～20 節

「しかしマリヤは、これらのことをすべて心に納めて、思いを巡らしていた。羊飼いたちは、見聞きしたことが、全部御使いの話のとおりだったので、神をあがめ、賛美しながら帰って行った」

(1) この時点でのマリアの理解度はまだ不十分であった。

①天使の告知、エリサベツの出産、羊飼いの言葉などの意味を考えた。

②出来事を比較し、その重要性を推し量る。

③彼女はこれを継続して行っていた。

④メシアの母の大いなる期待と不安がここに見られる。

(2) 羊飼いたちは、天に帰った天使たちの賛美を引き継いで神を賛美した。

①羊の群れのところに帰って行った。

結論：

1. 羊飼いが主役であることの意味

(1) メシア誕生の知らせは、先ず貧しい者たちにもたらされた。

①羊飼いの実態（童話的なイメージではない）

②律法に無知、嘘つき、罪人、汚れている者

③取税人や遊女と同じように、社会的のけ者である。

(2) 逆転の真理がある。

①マリア自身が体験したこと

②マリアの賛歌に歌われている（1：51～55）。

「主は、御腕をもって力強いわざをなし、心の思いの高ぶっている者を追い散らし、権力ある者を王位から引き降ろされます。低い者を高く引き上げ、飢えた者を良いもので満ち足らせ、富む者を何も持たせないで追い返されました。主はそのあわれみをいつまでも忘れないで、そのしもペイスラエルをお助けになりました。私たちの父祖たち、アブラハムとその子孫に語られたとおりです」

2. 「きょう」という言葉の意味（11 節）

「きょうダビデの町で、あなたがたのために、救い主がお生まれになりました。この方こそ主キリストです」

(1) メシアによる救いの時の始まり

①歴史の分水嶺

(2) ルカの福音書の中での「きょう」という言葉の使用例

①4:21 ナザレの会堂にて

「イエスは人々にこう言って話し始められた。『きょう、聖書のこのみことばが、あなたがたが聞いたとおりに実現しました』」

②5:26 中風の人癒し

「人々はみな、ひどく驚き、神をあがめ、恐れに満たされて、『私たちは、きょう、驚くべきことを見た』と言った」

③19:5 エリコにて

「イエスは、ちょうどそこに来られて、上を見上げて彼に言われた。『ザアカイ。急いで降りて来なさい。きょうは、あなたの家に泊まることにしてあるから』」

④19:9 ザアカイの家にて

「イエスは、彼に言われた。『きょう、救いがこの家に来ました。この人もアブラハムの子なのですから』」

⑤22:61 イエスを否んだペテロ

「主が振り向いてペテロを見つめられた。ペテロは、『きょう、鶏が鳴くまでに、あなたは、三度わたしを知らないと言う』と言われた主のおことばを思い出した」

⑥23:43 十字架上にて

「イエスは、彼に言われた。『まことに、あなたに告げます。あなたはきょう、わたしとともにパラダイスにいます』」

3. イエスの3つのタイトル (11節)

「きょうダビデの町で、あなたがたのために、救い主がお生まれになりました。この方こそ主キリストです」

(1) 救い主 (ソテイア)

①ローマ帝国では、皇帝を「救い主」と呼ぶようになった。

②クリスチャンにとっては、それはキリストのことである。

③自分は罪人だという認識があって初めて、この方は「救い主」となる。

(2) キリスト (クリストス)

①「油注がれた者」というタイトルである。

- ②ヘブル語では「メシア」である。
- ③このタイトルは、信者にとって最も重要なものとなる。
- ④救い主は、イエス・キリストと呼ばれるようになる。
- ⑤信者は、クリスチャンと呼ばれるようになる(使11:26)。
- ⑥私たちは、キリストにあって救いを得ている。

(3) 主(キュリオス)

- ①旧約聖書のヤハウエである。

(4) 最初にこの啓示を受けた人たちは、その意味を十分に理解していなかった。

- ①羊飼いがそうである。
- ②マリアもまた同様である。

*時として彼女の信仰は、揺らいだ(ルカ8:19。母と兄弟たち)。

- ③はっきりするのは、復活後である。

「ですから、イスラエルのすべての人々は、このことをはっきりと知らなければなりません。すなわち、神が、今や主ともキリストともされたこのイエスを、あなたがたは十字架につけたのです」(使2:38)

(5) ピリ3:20

「けれども、私たちの国籍は天にあります。そこから主イエス・キリストが救い主としておいでになるのを、私たちは待ち望んでいます」

- ①「主イエス・キリスト」
- ②英語で、「Lord Jesus Christ」である。
- ③救い主であるイエスは、メシアでありヤハウエである。
- ④この方によって、私たちの国籍は天に登録されている。